

今民主政権は「水はもう余っているから金のかかるダムはいらない！」と八ツ場ダムは完成間近にして中止されました。

一方、北海道では中国資本によって 400 ヘクタールも買収が進められており、更に埼玉、長野、三重、奈良等の水資源森林地帯を中心に買収交渉が雑誌、週刊誌によって取り上げられております。現況では中国系資本が「水資源と温暖効果ガス吸収源としての森林」をと買収獲得に動いていると言われております。既に世界の約 23 億人の人々が水不足によって日常生活活動に支障を生じて「水ストレス」が起こっております。

日本では北海道や奈良の山の中から水を運んで行ってもコストがかかりすぎて採算が取れないと今までの経験では思う人は多いと思いますが、この常識は大きく変わりつつあり、一説によれば水の売買価格は原油と同じ、1 バレル 40 ドルとなっている記事がありました。特にお隣の中国の水不足は深刻なものであります。

以前、私が中国を訪れた折、ガイドに水の事を聞きますと「上海万博が終わるところから更に砂漠化が進み、北京の近くまで…と心配されており、今でも 1 億人位が日常の水不足状態であり、川や湖の 70% は汚染されているので、5 千万人くらいの人達はフッ素やヒ素の入った塩辛い汚染水を常用化しております」と思わぬ答えが返って参りました。

天山山脈を遠く見る旅の折にも近い将来チベットの氷河を源流とする黄河、長江、インドのガンジス川、パキスタンのインダス川、インドシナのメコン川の水源地チベットを支配する中国に抑えられると水戦争が起こる危険性が心配されます。この水源が各国民の生命の与奪権を握るからであります。

日本は食糧自給率 40% を欧米化並みにもっと上げて、近い将来起こりうる食糧争奪戦に備えるべきだとの声が多くあります。自給率を上げるには先ず人と土地と水であります。あり余る様に見える日本の水資源は全く足りないと言われております。

一般的に今輸入している主な食糧 1 Kg を生産するのにどのくらいの水を必要とするか (バーチャルウォーター: 輸入仮想投入水) を調べますと、牛肉 1 Kg 当たり 20,000 リットル、豚肉 1 Kg 当たり 6,000 リットル、鶏肉 1 Kg 当たり 4,500 リットル、大豆は 1 Kg 当たり 2,500 リットル、小麦 1 Kg 当たり 2,000 リットル、トウモロコシ 1 Kg 当たり 1,800 リットルと試算されています。この数字を食糧輸入総量にかけますと、800 億 m³ となり国内総使用量が凡そ 800 億 m³、合わせて 1,600 億 m³ が日本の総必要量となります。

この様に日本の『水』は決して余ってはいないのであります。

少子化の日本に反して、中国、東南アジアでは 1 日 22 万人、年 8 千万人の人がどんどん増えております。食糧も水も間違えなく不足する日が目前だと思えます。私達も迫り来る食糧、水争奪戦を予期して、水源地の森林、里山、里川の保全にもっと関心を持つ事が必要であります。1 年間に廃棄される残菜凡そ 2 千万トン は貴重な外貨で買い求めた輸入食糧の 30% に当たります。

作ることよりも先ず、捨てない努力を身近なところからすべき時です …。